

温泉地域活性化基本構想

～事業者との連携を図った温泉地域の活性化～

キーワード 地域活性化, 再生可能エネルギー, 観光振興, 温泉, 合意形成

行政支援サービス部 なかじん やすゆき みやぎ なつこ
中陳 泰之・宮城 奈津子

はじめに

アジア航測では、全国的に進む公共施設の老朽化に対応するため、施設の再整備計画や建築設計業務に取り組んでいます。本稿では、温泉宿泊施設の再整備を見据えた、温泉地域の活性化基本構想について紹介します。本構想の策定にあたっては地元事業者の声を聞きながら、地域に合っ

た活性化のあり方を検討しました。また、温泉宿泊施設の再整備計画の策定では、地球温暖化対策などの社会的な要請を踏まえ、温泉の加熱手法としてバイオマス燃料などの再生可能エネルギーの導入を検討しました。

背景と構想策定までの概要

佐久市望月地域にある春日温泉は、開湯以来300年以上の歴史を持つアルカリ性単純温泉で、古くより湯治場として利用されてきた温泉地です。近年は乗馬体験場やセラピーロード等のレクリエーション機能も充実し、多くの観光客に親しまれています。しかし、春日温泉にある市有の温泉宿泊施設は、昭和62年の開設から55年が経過し、配湯のための加温施設や建物自体の老朽化が進んでおり、早急な対策が求められる状況にありました。こうした現状を踏まえ、春日温泉地域における温泉施設の再整備方針と春日温泉のあり方・方向性を定めることで、佐久市の温泉地としての更なる活性化を図るため、温泉地域活性化基本構想を作成

しました。

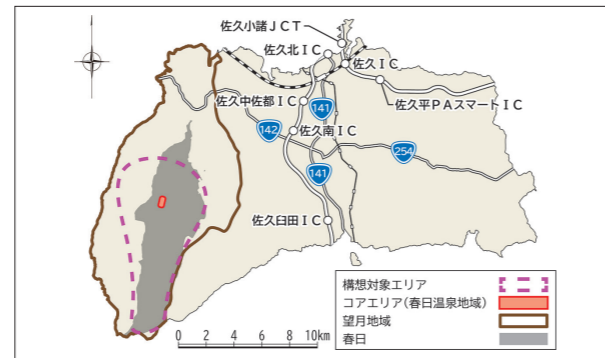


図1 佐久市における本構想対象エリアの位置

春日温泉地域の魅力と課題の把握、ターゲットの設定

春日温泉地域の魅力と課題を把握するため、事業者との検討会を開きました。魅力としてあげられたのは、「星が綺麗」「豊かな自然環境」の他に、「俗化していない」「観光地化していない」「ほっとする空間」「親しみやすい土地柄」など、まちとしての魅力が指摘されました。一方課題としてあげられたのは、「意欲的な事業者のさらなる呼び込み、定着化」「施設の魅力発信と連携強化」「滞在時間の延長」などでした。

これらの結果から、春日温泉地域の理念を「四季折々の自然の中で、癒しとやすらぎのある暮らすような滞在空間を活かし、持続可能な温泉地をめざす」と定め、活性化に向けた基本方針として「地域住民と観光客の交流促進」「既存資源の活用と魅力の向上」を設定しました。

また、来訪者のターゲットの設定において、現在の春日温泉地域の利用者属性の把握のため、アンケートを実施し

ました。現在の利用客は、長野県内や首都圏より来訪しており、50歳代以上が約9割を占めていました。このことから、現状の利用層を維持しつつ、今後、春日温泉地域を活性化していくためには、40歳代以下のファミリー層や若者の利用が必要であると考えました。さらに、現代版の「湯治」として、健康回復のための長期滞在のほか、静かで俗化していない春日温泉地域の特徴を活かしたワーケーションでの利用者をターゲットに設定しました。

表1 利用者の設定

現状のターゲットとする利用者	長野県内	地元利用（長野県内や佐久市内の利用時）
	首都圏	50代以上中高年層のリピーター
新たなターゲットとする利用者	長野県内及び首都圏	40代以下のファミリー層や若者
		長期利用者（ワーケーション利用）

活性化のための具体的方針案の提示

事業者との検討会などで課題としてあげられた「施設の魅力発信と連携強化」、「滞在時間の延長」に対応する具体的施策として、地域情報の案内機能や交流機能を備えた施設の設置を提案しました。施設には観光案内所としての機能に加え、地域住民同士や地域住民と観光客との交流の場となる空間を設けるものとしました。宿泊客を含む春日温泉地域の来訪者に地域全体の観光情報を一箇所ですべて提供することで、地域内の周遊性を向上させることができます。

また、「魅力発信」のための具体的施策案として、佐久市出身漫画家の作品キャラクターとのコラボレーションを提案しました。春日温泉地域を知らない利用者に対して、話題性のあるアニメキャラクターを用いることで、温泉に来るきっかけを作り、目的であったアニメキャラクター以外の温泉や食べ物、ほっとする空間などの魅力を知り、リピーターとしての利用定着を促す狙いです。



写真1 作品キャラクターの例
マンホールの蓋

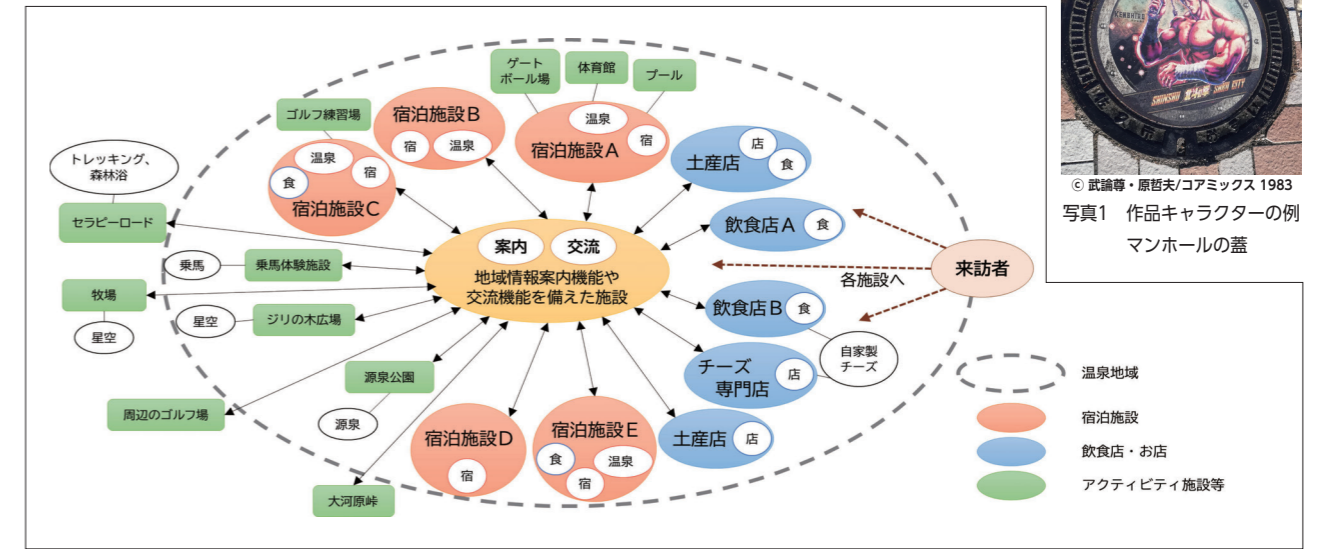


図2 案内交流機能を整備した春日温泉地域ネットワークイメージ図

再生可能エネルギーを利用した温泉加温施設の検討

現在の温泉加温施設は老朽化が進んでいることから、再整備が求められていました。そこで、温泉加温施設で最も重要な設備であるボイラーについて、加熱手法別に比較検討しました。現状のA重油型、灯油、ガスといった従来型のほか、地球温暖化対策などの社会的な要請を踏まえ、再生可能エネルギーであるバイオマスを使ったボイラーを比較対象としました。

バイオマスボイラーはCO₂排出量がゼロであるという特

徴をもち、イニシャルコストは現状のA重油型と比較すると3倍以上となりますが、環境負荷は最少です。バイオマスボイラーに使用する燃料として木チップとペレットを比較し、ランニングコストが低い木チップ燃料のバイオマスボイラーを推奨しました。

バイオマスボイラーは急激な負荷変動にボイラーが追従できないという課題をもつことから、A重油型、灯油、ガスなどの従来型と併用することを最終的な方針としました。

おわりに

春日温泉地域では、地域事業者との検討会を行うとともに、温泉施設利用者のニーズを把握し、「自然、癒し、暮らすような滞在空間」をキーワードに据え、春日温泉地域に合った活性化の方向性を検討しました。

アジア航測では、引き続き地域活性化のための構想や計

画の実施支援、施設再整備のための建築設計などに取り組んでいく方針です。

本報告は、佐久市役所観光課より受託した業務成果の一部を記載したものです。ご協力いただいた関係各位に、厚く御礼申し上げます。